

図書館情報

●お問い合わせ 本館 73-1616
清和 82-3033
蘇陽 73-2755

「第143回 直木賞・芥川賞決定！」

直木賞「小さいうち」

中島 京子 (なかじま きょうこ) 文芸春秋 分類913

戦時中、おもちゃ会社の重役宅で女中として働くこととなったタキ。タキは美しい奥様との出来事や、日々の風景をノートにつづる。そして、意外な所から、物語は現代へと繋がる。奥様の切ない恋、タキの心に秘めた想いとは？



芥川賞「乙女の密告」

赤染 晶子 (あかぞめ あきこ) 新潮6月号 分類913

京都の外国語大学でドイツ語を学ぶ主人公は、「アンネの日記」のドイツ語での暗唱に励む日々。しかし、大学では派閥争いが起こり、やがて密告が……。大学での出来事を通して、主人公は「アンネの日記」の本質へ触れてゆく。

「9月のおすすめ図書」

「終わらざる夏 上・下」

浅田 次郎 (あさだ じろう) 集英社 分類913

第二次世界大戦末期、翻訳者の片岡・ありえない4度目の召集を受けたタクシー運転手鬼熊・志高い医大生菊地の三人は、ある使命を受け北の孤島「占守(シムシユ)島」へと向かう。「占守島」では、函館へ帰ることを待ち望みながら、女子高校生らが缶詰工場で懸命に働いていた。しかし、玉音放送の翌日、「占守島」では凄惨な戦闘が始まる。せめて、少女たちを送還させようとする兵士たちは決起するのだが……。戦後65年。人々は何を信じ、守ろうとしたのか。未だ語られたことの無い、戦争の物語。



「地元学からの出発—この土地を生き た人びとの声に耳を傾ける」

結城 登美雄 (ゆうき とみお) 農文協 分類318



村が村であり続ける力とは何か？ その場に暮らす人々が「あるもの探し」をして、より良い暮らしを模索していくことが「地元学」です。食の文化祭、共同店……。知恵と手法で楽しく始められる、活性化のヒントが満載。地元の資源を見直し、地域の再生を進めている町村（宮崎県高千穂町など）の取り組みも掲載されています。

特集 読み語り講習会

7月17日(土) 勝敏彦さん(元NHKチーフアナウンサー)を講師に迎えて、「読み語り講習会」が開催されました。この講習会は読み語りのよさや、心構え、具体的な方法について学ぶために開催されています。今年は、40名近い方が参加され熱心に研修されました。



勝 敏彦さん

はじめに勝さんが「手ぶくろを買いに」(新美南吉作)を朗読されました。とても心地よい読みで作品の中に引き込まれてしまいました。区切り、間の取り方、強弱、感情の入れ方、ゆっくり読むことなどを指導していただきました。

参加された方から

※一つ一つの言葉を丁寧に読むことの大切さを学びました。

※実際に読むということ緊張しましたが、勝さんのアドバイスを受け読み方が変わったと自分でも解りました。

※小学校で読み聞かせをしています。研修で学んだことを生かして、これからも読んでいきたいです。



ご協力お願いいたします

★ご自宅に、返却予定日を過ぎた図書館の本はありませんか？

次に読みたい方のため、返却期日をお守りください。

★図書館バッグが不足しております。マイバッグのご持参にご協力宜しくお願い致します。

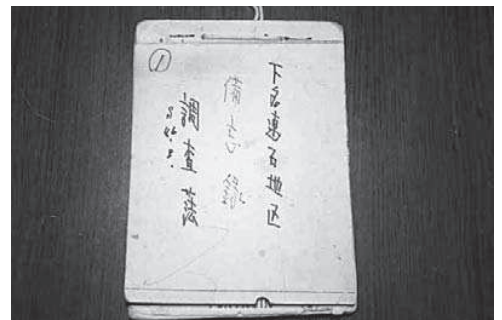


左 寄贈者の倉岡良友氏 右 下田美鈴図書館長

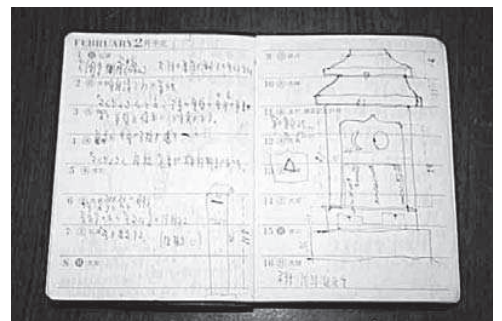
測定し、写真撮影を行い、残された文字や梵字などを書き写し、地元へ伝わる伝承などが記されています。たとえば、浜町の小一領神社の箇所には、次のように記載されています。

「次に拝殿正面の左右に石造狛犬が配置されている。基底・台座に載り、向って右が阿形、左が吽形像である。台石に『奉獻、寛政元年(1789)西五月吉日、願主、野尻清九郎』と刻銘がある。野尻清九郎(通名)といえは天和の頃から在町の浜町で造酒業や両替商等を営んで、浜町随一の大商家であった。本備前屋の野尻清九郎が、天明2年(1782)『一七反千俵積』の船を買い求め『小丸』と名づけて川尻につないでおき、直接商業の中心地である大阪との取引を行ったほどの発展ぶりであった。花崗岩の二個の狛犬は、彼が大阪に注文して作らせて奉納したといわれている。

このように、倉岡氏が寄贈された「矢部町の歴史と信仰風土記」は、地域に残る身近な文化財から、私たちの先祖の歴史を教えてください。(やべごう郷土史伝承会会員 田上彰)



倉岡良友氏愛用のフィールドノート



犬飼の「さんや」さん調査時のフィールドノート



場所…清和保健センター

期日…9月12日(日)
時間…午前10時30分から午後2時まで

清和文楽の里まつりに、絵本カーニバルがやってきます！約200冊の楽しい絵本と、すてきな布絵本が皆さんのご来場をお待ちしています。読書の秋、心に残る特別な一冊と出会えるかもしれませんよ。

in 清和文楽の里まつり
絵本カーニバル



「矢部町の歴史と信仰風土記」寄贈

去る6月12日、城平の倉岡良友氏(85歳)から「矢部町の歴史と信仰風土記」50冊を町立図書館へ寄贈していただきました。これは、倉岡氏が約50年に亘

り、旧矢部町の大字ごとの地名や文化財などを調査し、まとめられたものです。この資料には、その地域に残る文化財を、丁寧に一個ごとに